

第53回 定期演奏会

コンチエルトデーノ ディ キョウト

CONCERTINO DI KYOTO

2011
11.3 (日)
午後2時

京都コンサートホール(小)



文化の感動
京都市

主催
協力
後援

才能教育研究会京都支部
才能教育研究会関西地区ピアノ科
京都市

バッハ J.S. BACH Fuge in a BWV. 947
フーガ イ短調 BWV. 947

ヴィヴァルディ A. VIVALDI Concerto Grosso [L'estro armonico] Op. 3-8
合奏協奏曲 「調和の靈感」 作品 3-8
村山 直 西田 知代

タルティーニ J. TARTINI [Sinfonia Pastorale]
田園交響楽 「Sinfonia Pastorale」
渡辺 絵美理 清水 円

ハイドン J. HAYDN Piano Concerto in D
ピアノ協奏曲 二長調
國重 英彰

バッハ J.S. BACH Brandenburg Concerto No. 4 in G BWV. 1049
ブランデンブルグ協奏曲 第4番 ト長調 BWV. 1049
高岡 舞 日置 明子 日置 光子

ヴィヴァルディ A. VIVALDI Concerto in A RV158
協奏曲 イ長調 RV 158

指揮 江村 孝哉



Piano 國重 英彰

1992年2月22日生まれ。四歳より才能教育ピアノ科北摂支部田中教室にて田中和子先生に師事。現在は大阪市立大学商学部の一回生

自分にとっての音楽

僕はピアノを習い始めたのは四歳の頃でした。最初は、親に言われたからとの理由で続けていたのですが、小学校に入る頃にはピアノはすでに僕の生活の一部でした。ピアノを続けている事で、音楽を中心とした活動などにとっても興味を惹かれていったからです。そのうち中学校に進学して僕はオーケストラ部でヴィオラを始めました。オーケストラの一員として大人数と一つの曲を演奏する経験は今の僕の重要な要素の一部です。しかし、親への反発もあり一時期音楽へのモチベーションが下がってしまいました。しかし、他校のオーケストラとの合同演奏などの経験を経ると他人と一つの音楽を作り上げることに再び魅力を感じると共に以前より一層音楽を愛せるようになりました。そして、高校時代にJazzと出会い、大学に進学すると交響楽団とJazz研究会に所属しました。僕にとって音楽とは不器用な自分が自分を表現できる手段であると共に他人とお互いを主張しあいつの事を達成できるものです。体が丈夫ではなく、運動も苦手だった僕にとっても初めての事でとても難しいものでした。練習を重ねて行くうちにピアノを演奏しながら、オーケストラと息を合わせる事に楽しみを感じられるようになってきました。お越しいただいた皆様にその楽しさと喜びが伝われば幸いです。

バッハ フーガ イ短調 BWV.947

1685年生～1750年没。父や兄達も音楽に携わっていた音楽一家でこの時代には長生きしたといえそうです。同年生まれの大作曲家に、ヘンデルやスカルラッティがいます。古典以前のバロック期作曲家は、バッハの他にも多くの方がいたにもかかわらず、今日ではその多くが忘れられている現状では、バッハの存在感は他を圧倒しています。バッハの息子達も作曲であったため、現在では「大バッハ」という言い方をし、区別することもあります。音楽的には、その作曲技法は非常に高度で他の追隨を許さず、特にフーガの作曲では右に出るものはいないと言われてます。その後を表れたベートーベンやショパン、シューマン、そして近現代の作曲家など多くの音楽家に多大な影響を与えたという意味でも、クラシック音楽では最高峰に位置する作曲家でしょう。19世紀の出版譜より多くの古い資料が失われているためバッハの真作であることを証明するのはきわめて困難です。

ヴィヴァルディ 合奏協奏曲 「調和の靈感」 作品3-8

数多くの協奏曲を書き「協奏曲の父」の異名を持つヴィヴァルディ、生涯に残した650曲ほどの作品の内450曲あまりが協奏曲です。ヴィヴァルディは音楽家である前に僧籍を持つ司祭でした。髪の色が赤いことから当時「赤毛の司祭」と呼ばれていました。そんな彼が赴任したピエタという名の慈善修道院には身寄りのない孤児を集めた付属の女子音楽学院がありました。この学院の生徒たちには優秀な演奏者も多く、ヴェネチアの音楽文化の中心となるほどでした。自らも優れたヴァイオリン奏者だったヴィヴァルディは、この子らに演奏や音楽を教えつつ、学院のオーケストラのための作品を作曲しました。ヴィヴァルディの膨大な作品のほとんどは、この音楽院のために書かれたといわれます。身寄りのない音楽院の女子生徒たちがヴィヴァルディの曲を見事に弾きこなし、その姿にヴェネチアの市民たちが拍手喝采を送る…。まるで映画のワンシーンのような光景です。こうして書き上げた協奏曲から12曲を選んで出版されたのが「調和の靈感」です。有名な「四季」に勝るとも劣らない名作で、出版当時のヨーロッパでも大反響を呼びました。トレッリ(1658-1709)に始まり、ヴィヴァルディが発展させた協奏曲はその後のヴェラチーニ、タルティーニ、ロカテッリらといったイタリアの作曲家に留まらず、テレマン、ヘンデル、J.S.バッハにも多大な影響を与えて行きました。中でもJ.S.バッハは、若い頃にヴィヴァルディのコンチェルトをチェンバロやオルガンのために編曲し、その作曲技法を学んでいます。バッハがヴィヴァルディの影響を受けている言うことは、そのバッハを手本としたモーツァルトやベートーヴェンがヴィヴァルディの協奏曲もまた、ヴィヴァルディの影響を間接的に受け継いでいると言えるでしょう。モーツァルトやベートーヴェンが直接ヴィヴァルディの作品に触れたわけではありませんが、ウィーン古典派の協奏曲の基本的な技法の原型は、ヴィヴァルディの中に見いだすことができると言われています。

実のところヴィヴァルディの研究が始まったのは19世紀後半になってからで、J.S.バッハの作品うち数曲がヴィヴァルディの作品を編曲した物だと判明したときから、付随的な興味を持たれたのが最初でした。それまでは歴史から全く忘れられた作曲家のひとりであり、彼の作品自体現物がほとんど存在しない状態だったようです。その後1926年になってイタリアのトリノ大学図書館で膨大な数の協奏曲を含む自筆譜が発見されて、初めてヴィヴァルディの活動のあらましが確認出来るようになりました。従って、ヴィヴァルディがイタリア後期バロック期の作曲家の中で、偉大な存在であったのが一般に知られるようになったのは、つい最近の事なのです。

タルティーニ 田園交響楽 「Sinfonia Pastorale」

夢の中で悪魔がヴァイオリンを弾いているのを聴き、そのあまりの美しさに起きてからすぐにそのフレーズを書き留めたところから作曲したと言われている「悪魔のトリル」で有名なタルティーニは1692年4月8日イタリアのピラノで生まれました。パドヴァの大学で法律と神学を学びますが、パドヴァの大司教の庇護のもとにあったプレマツオネという女性と秘かに結婚していたことがばれて逮捕され、アッジジに追放されました。ヴァイオリンソナタ「悪魔のトリル」が作曲されたのはこのアッジジ時代の1713年頃のことだといわれています。やがて大司教の怒りもおさまりヴァイオリンの腕を認められたタルティーニは、パドヴァに戻ってプレマツオネと正式に結婚することを許可され、1721年にはサンタントニオ教会の第1ヴァイオリン奏者に任命されました。また1723～25年にはブラハの宮廷オーケストラの指揮者にもなっています。その後彼はパドヴァで音楽学校を開校し、後進の指導に当たりながら数多くの曲を世に送り出しました。生涯に作曲した曲は350曲以上になります。

パストラレ (pastorale) には二つの意味があります。一つは、「田園」という意味で、ルネッサンス時代から流行した田園的な風景を舞台に羊飼いやギリシャ神話の神々が登場する恋の物語の劇で、クリスマスとは直接関係ないもの。もう一つは、イエス・キリストが誕生したという知らせはまず羊飼いたちにもたらされたという聖書によるもので、17世紀のイタリアではクリスマスの朝、近郊の村から羊飼いが (pasotore) たちがやってきて、バグパイプのような楽器やピッファロ (オーボエ属) を奏する習慣があったのだそうです。バグパイプのドローン (低音を持続させる音) が特徴で、また、6/8拍子や12/8拍子のリズムの舞曲です。チェロがドローン・バスを受け持って、パストラレの雰囲気を感じ出しています。時代を経て、例えばベートーヴェンでは交響曲第6番「田園」がパストラレですが、クリスマスというのでなく、牧歌劇というのでなく、いわゆる牧歌的、田園風という意味に使われるようになりました。曲想標語のパストラレも同様です。

コンチェルティーノ・ディ・キョウト

才能教育研究会京都支部の最上級生で構成される弦楽合奏団で、昭和34年の結成以来年1回の定期演奏会を開催し、また卒業演奏会において伴奏を担当。過去にモリス・ジャンドロン(チェロ)ルイ・モイーズ(フルート)フェリックス・アーヨ(ヴァイオリン)といった演奏家と共演してきた。

- Vn 渡辺 絵美理 村山 直 高岡 舞
西田 知代 清水 円 佐々木めぐみ
- Vla 江村 美由紀 仲佐 悦子
- Vc 森田 健二 田村 忠司
- Cb 赤松 美幸 (客演)
- Camb 永田 悦子
- Ob 安部 しげか 吉田 真佐彦 (友情出演)
- Hr 高田 仁美 瀧川 美佳 (友情出演)

ハイドン ピアノ協奏曲 二長調

「パパ・ハイドン」のあだ名で誰からも愛され、性格は温厚で面倒見がよくユーモアが大好きだったといわれています。彼の作品で最も有名なのは“びっくり交響曲”の愛称で知られる交響曲第94番「驚愕」で、静かに始まる第2楽章で突然大音量が響きわたる。これはどうやら、いい気持ちで眠っている人を起こすため、といわれています。また、弦楽四重奏曲にも使われている歌曲「皇帝讃歌」（神よ、皇帝フランツを守りたまえ）は、現在もドイツ国歌として使われています。子だくさんの貧しい家庭に生まれたハイドンは、声が良かったために教会の聖歌隊の仕事につきますが、ボーイソプラノだったため声替わりすると聖歌隊を追い出されました。自立を余儀なくされ、独りで作曲を学んだハイドンは徐々に作曲家として認められるようになり、その勤勉ぶりが認められエステルハージ侯爵家のおかえ楽長に取り立てられ30年にわたって侯爵のわがままと気まぐれを我慢して定年まで勤めあげた頃には名声は全世界に及び、最後は栄光のなかで77歳の人生を閉じました。地道に努力し我慢を重ねれば最後には報われるという、サラリーマンの鏡のようなハイドンはとにかく勤勉な人だったので、その生涯に100以上もの交響曲を書き、弦楽四重奏曲という形式を創り、器楽曲や協奏曲、宗教曲からオペラまで、あらゆるジャンルの曲を作曲、それらは主に仕えた館での演奏のために作曲されています。また、バッハなど先人の作品を研究し、ソナタ形式などの様式を確立して、古典派の巨匠とも呼ばれます。24歳年下のモーツァルトの才能をいち早く見抜き、彼が亡くなるまで変わらぬ友情を結び、また自分の弟子だったこともある若きベートーヴェンのために、経済的な援助をある貴族に願い出たりもしています。1781年から1800年頃のウィーンでは、お互いに刺激を受けながら音楽界の三巨匠の交流が続けられていたのです。

鍵盤楽器のための協奏曲のうち唯一、ハイドンがフォルテピアノを使用していた1780年代の曲で、「ハイドンのピアノ協奏曲」といえばこの二長調の曲を指すとされています。（他の曲はチェンバロ、もしくはオルガン協奏曲）

バッハ ブランデンブルグ協奏曲 第4番 ト長調 BWV.1049

原題は「種々の楽器のための6つの協奏曲集」で、楽譜を献呈したブランデンブルク辺境伯ルードヴィッヒにちなんで「ブランデンブルク協奏曲」と呼ばれています。ちなみに「辺境」とかついているので「田舎？」みたいなイメージですが高い地位の伯爵で、その領地は現在のドイツ東北部とベルリン、およびポーランドの一部です。これはバッハがケーテンの宮廷楽長に就任する4年前のこと、国王ヴィルヘルム一世は音楽を愛する人物ではなく、経費節減のためベルリンの宮廷楽団を解散してしまいます。楽団には優れた演奏家が幾人もいましたが皆、職を失ってしまいます。すると、彼らの中の数人に、音楽に惜しげもなく予算をつぎ込んでいたケーテンのレーオポルト公から誘いの手が伸びました。こうして錚々たる顔ぶれがベルリンからはるばるケーテンにやってきたことで、人員的なスケールにおいても質的な意味でも、小さな宮廷に異例の充実した楽団ができあがりました。1717年に32歳のバッハが楽長としてケーテンに乗り込んだときの宮廷楽団の実態でした。曲集の大半がケーテンの宮廷オーケストラを念頭に作曲され、ケーテンの名手たちによってこれらの協奏曲が盛んに演奏されました。辺境伯への献呈に当たって選り抜きの自信作を厳選、つまりバッハが自分の作曲能力を誇示した、協奏曲のベスト、名曲選集と言え、献上に名を借りた就職願いだだったといわれています。

ヴィヴァルディ 協奏曲 イ長調 RV158

ヴィヴァルディが国際的な名声を博したのは、1711年に彼の最初の協奏曲集《調和の幻想》op.3が出版されて以来のことでした。一方、1713年以降はオペラの作曲と上演にもたずさわり、自作のオペラの上演のためにしばしば他の都市や外国へ出かけるようになり、その名声は広くヨーロッパの各地に届き、1725年には《四季》を含むヴァイオリン協奏曲集《和声と創意への試み》op.8が出版されるに及んで、決定的なものになります。その後モタリアのみならず、ヨーロッパ各地で精力的に音楽活動を行っていますが、次第に流行から取り残され、その人気は徐々に下り坂になっていったものと思われれます。1740年にはピエタ養育院の職を辞し、みずからの曲を二束三文で売り払ってヴェネチアを後にしますが、その動機は様々な憶測を生みながらも未だに明らかになってはいません。ヴィヴァルディがどこで亡くなったもの長く不明のまま、彼が1741年にウィーンの貧民墓地に埋葬されたことが明らかになったのは、その死後、約2世紀を経た1938年のことでした。なぜ聖職者が貧民墓地に葬られなければならないのか、それもいまだに謎のままなのです。

「四季」に代表される、ヴァイオリンのための協奏曲をたくさん残しましたが弦楽合奏のみのための作品も数十曲書いている、「弦楽のための協奏曲」とか「シンフォニア」とか「コンチェルト・リビエノ」とかいろいろ名前をつけています。協奏曲ではないし、交響曲ともいえないので、ロッシェニみたく「弦楽のためのソナタ」とでも名付けてくれればもっとしっくりきたかもしれません。ヴィヴァルディの作品の中では「調和の幻想」や「四季」の陰に隠れてあまり知られていないのですが、聴きごたえのある美しい曲が多く含まれています。技巧的なパッセージよりも、メロディの美しさや構成の妙が要求される種類の音楽です。さわやかに流れる長調の曲も陰影が魅力的な短調の曲もあり、緩徐楽章はロマンティックな情緒を感じさせる美しい曲が多いです。

才能教育研究会 京都支部 活動予定

2012. 1. 15	関西地区大会	琵琶湖ホール
2012. 4. 15	卒業演奏会	京都府立文化芸術会館
2012. 9. 9	合奏発表会	京都府立文化芸術会館